応仁の乱と戦国大名

応仁の乱のあと、地方の政治はどのように変わったか

応仁の乱（1467〜77年）
将軍のあとつぎ争いと
守護大名の対立から
京都で11年続く

→

京都が焼け野原に
公家や僧が地方へ
移り、文化も広まる

→

幕府の力が衰える
将軍の命令が
地方に届かない

→

下剋上が広がる
家臣が主人をたおし、
実力のある者が
力をのばす

↓

戦国大名が領国を治める

分国法
家臣や領民が守る
きまりを定める
（けんかの禁止など）

城下町
城の周りに家臣や
商工業者を集めて
住まわせる

産業を盛んに
鉱山を開発し、
堤防を築いて
新田を開く

交通と商業
関所をなくしたり
市を開いたりして
商工業を盛んにする

領国を自分の力で支配し、富と兵力を強めて、ほかの大名と争った（戦国時代）

この中から、全国の統一をめざす大名が現れる（織田信長・豊臣秀吉）。

取り組みは代表的な例で、大名によって違う。人物の姿は描いていない。